

恩納村博物館サンセットコンサート

3月30日、恩納村博物館サンセットコンサート「伝統組踊と恩納村に伝わる組踊」を開催しました。サンセットコンサートはロケーションの良い博物館の展示ホールを活用し、皆様に優れた音楽や芸能に触れていただく機会を提供することを目的に毎年開催しています。

沖縄の伝統芸能「組踊」は、1719年に首里城内にて当時、踊奉行であった玉城朝薫たまぐすくちようくんによって創作、上演されたとされています。今年おどりぎょうは組踊初上演から、ちょうど300年の節目の年ということで、サンセットコンサートでは、恩納村内で継承されているムラの組踊と劇場などで演じられている伝統組踊の同じ場面を上演し、その違いについて紹介しました。

当日は今後組踊を鑑賞するきっかけとなるよう、冒頭に国立劇場おきなわで芸術監督を務めている嘉数道彦さんに組踊の楽しみ方を解説していただきました。その後会場の中から1名の希望者を募り、一緒に「即興組踊」を披露していただき、組踊の様式や観賞のポイントなどを紹介していただきました。ユーモア溢れる舞台となり、会場は終始笑い声に包まれ、来場者にとっては組踊について楽しく学ぶ機会となったようでした。

後半は「忠臣身替」から抜粋した「波平大主道行口説」を恩納区と伝統組踊の演者に披露していただき、続いて、「花売の縁」から抜粋した「猿引の場」を南恩納区と伝統組踊の演者に披露していただきました。どの組踊においても継承されてきた経緯の違いなどにより、セリフや振り付けの違いなどはありますが、披露後の演者へのインタビューなどをとおして、それぞれの良さを再確認する場となりました。

会場で実施したアンケートでも概ね好評をいただいたサンセットコンサートですが、今後も恩納村博物館ならではの多様な企画を実施していきたいと思っていますので、次回も是非ご来場ください。

最後になりましたが、この場をお借りして今回のサンセットコンサートを成功させるにあたり、出演していただいた皆様と多大なご協力をいただいた恩納区・南恩納区、関係者の皆さまに感謝申し上げます。



志願者と一緒に舞台上で即興組踊を披露する嘉数道彦さん（右）



「波平大主道行口説」を披露する恩納区大城勝太さん



「猿引の場」を披露する南恩納区の桐野龍さん、山内啓聖君、石川一紀さん、小川時和さん



組踊の披露後のインタビューの様子